

第7回超高齢社会に対応したごみの収集方法等に関するワークショップまとめ

テーマ

「有料化導入」「無料で課題を改善」に分かれて各チームの意見をまとめ発表する。
個人の意見に基づき、いずれかのチームに分かれる。

チーム編成について

出席者全員が「無料で課題を改善」チームを希望した。

意見のまとめ

1 有料化反対について

- ・高齢化が進み年金生活になると、ごみの有料化は家計を圧迫し、高齢者にとって手数料を払いきれぬかという不安感が大きくなる。
- ・エレベーターのないアパートに居住する高齢者については解決策にはならない。
- ・本市では、若い人が市外に流出している。ごみ収集が無料であることや隣近所が助け合っている市ということをセールスポイントにして、若い人が流入するようなまちづくりを推進したらよい。

2 有料化の理解について

- ・地域での支え合いの一環として、高齢者のごみ出し支援に係る自治会費として地域が手数料を集めれば、理解を得られるのではないか。
- ・現行でもごみ袋を購入して利用しているのであれば、有料化により市が指定するごみ袋を購入することで、購入費が直接市民に還元されることになる。歳入の使途を明確にすれば理解を得られるのではないか。

3 課題の改善について

- ・正しくごみを出す人や地域に、報償などにより直接の利益が還元されれば、ごみの適正排出は進むのではないか。
- ・表彰制度を導入するなどの工夫が必要なのではないか。
- ・排出状況の悪い集積所の周辺のアパートをモデル地区として指定し、課題を洗い出して改善を行い、手法を全市に広めればよい。

4 地域での助け合いシステムの確立の推進について

- ・自宅で生活できなくなれば、施設に入所するケースが多い。自宅で生活できるうちは、社会の助け合いの中で解決できるシステムが必要である。
- ・災害時に地域での助け合いが必要であるとの観点から、各自治会で活動がされているが、有事だけでなく、普段から高齢者の見守りや孤独死の防止などに有効なシステムを地域の中で確立をさせる必要がある。
- ・地域での助け合いを推進してもカバーしきれない部分について、行政に頼るということであればよいが、地域での助け合いシステムの確立について検討を行う前に行政に頼るのは短絡的である。

- ・地域で生活に困り感を抱えている人は、自治会長や民生委員が把握しているが、個人情報保護の関係で外に繋げていくことが難しい状況にある。
- ・困っている人が、抵抗なく困り感を外に出せるシステムを確立し、地域でカバーできない部分については、愛の一声ごみ収集を拡充し、補っていくことが望ましい。

5 愛の一声ふれあいごみ収集の拡充について

- ・行政が、自治会長・民生委員・地域のケアマネージャーなどと連携して、介護認定を受けていなくても状態に応じてサービスが受けられるシステムに改善することが必要である。
- ・制度を知らない人が多い。積極的に周知するなどして、サービスを必要とする人が制度を知り利用することのできる環境を整えていくことが必要である。